

下余部の大庄屋八木家(現、徳栄寺こども園)北側に池の川公園があり、それに隣接する形で津市場の西北小字溝路みぞろに位置する小社が木南神社きみなみである。『網干町史』には東西1間9合、南北2間6合の小堂を存し、南天塚と称している。敷地7坪87、楠木一族の墓と言われる五輪塔を存し、また楠木正有の墓とも言うが、明確ではなく楠木正有の素性は不明とある。安政5年(1858)に編纂された丸亀藩の『西讃府志』にもこの神社の記載はないことをみると、明治以降木南神社は存在していなかったと思える。

敷地内には鳥居、玉垣、狛犬、手水鉢など私達が思い浮かべる神社の形態のものではなく、社の中に石の香炉はあるが、巾一間程の緩いL字型の狭い社地には五輪塔の形跡すら残ってはいません。

昭和17年(1942)9月世話人、贈主が還暦の61才男女により建立された御百度石があり、日本が前年12月に真珠湾攻撃に端を発した太平洋戦争へと突入していく時でもある。武運長久を願い無事に帰還する祈りを込め、御百度を踏んでいたのかもしれない。

社の中の説明版でも、いつ頃からお祀りしていたか現在では不明であるとされ、木南神社が昭和12年建立された時代背景を探ると、昭和6年の満州事変、7年の5.15事件、8年には国際連盟からの脱退等軍部の台頭、明治憲法により主権(統治権)は天皇となり「天皇に忠誠を尽くす」気運の高まりもあったのだろう。明治5年に湊川神社が建立され楠木正成が神格化されるなか、楠公さんの謂れのある津市場に命日の5月25日を祭日に行っている事からも正成公に心酔する住民達の手で新たに神社が創建されたのではないかと考えている。

網干歴史講座会員 御津町 肥塚昭子



木南神社全景



御百度石